

「卒業生就労状況調査」 調査の概要

1 調査目的

本学の卒業生が看護職者としてどのようにキャリアを形成し、現在、どのように働き、また、今後、どのようにキャリアアップしていくことを希望しているかを把握することによって、卒業教育における課題を抽出し、卒業教育を充実させるとともに、キャリア教育をはじめとする学生への教育内容の充実に活用する。

また、キャリアアップしながら、生涯を通じて働き続けるために必要な支援等を洗い出す。

2 調査期間 平成 27 年 9 月中旬 ～ 平成 27 年 12 月 15 日

3 調査対象 開学から平成 26 年度卒業の本学卒業生 1435 名

4 調査方法

郵送法による選択回答及び一部自由記載による質問紙調査を行った。回答は無記名とし、同封した封筒で個別に返送を依頼した。

①同窓会名簿に登録されている住所への郵送

②卒業時の自宅住所への郵送

③同窓会からの呼びかけ

④県内医療機関に本学卒業生への配布を依頼

※看護管理者意見交換会（本学主催）において看護部長に協力を依頼した。

5 回収状況 690 件（48.1%）

6 調査項目

A あなた自身について

B 就業状況について

C 看護職者としてのキャリア形成について

D 本学における学修等について

E 卒業生支援について

集計結果（概要）

平成 27 年 9 月～12 月に本学の 1 期生～15 期生の卒業生 1435 人に「卒業生就労状況調査」を実施した。

690 人から回答が得られた（回収率 48.1%）。

1. 対象の属性

1) 年齢

年齢は 26 歳～30 歳（34.1%）と 31 歳～35 歳（32.7%）で全体の 66.8%を占めていた（図 1）。

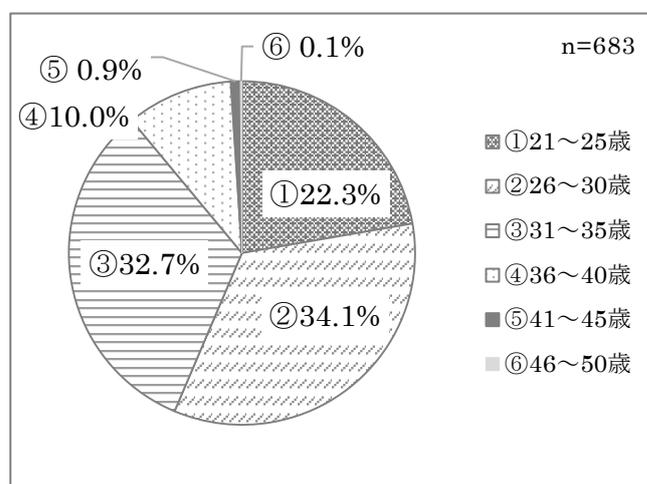


図 1 年齢

2) 子どもの年齢

子どもがいる卒業生 278 人の子どもの年齢は 10 歳以下が多く、特に乳幼児に集中していた (図 2)。

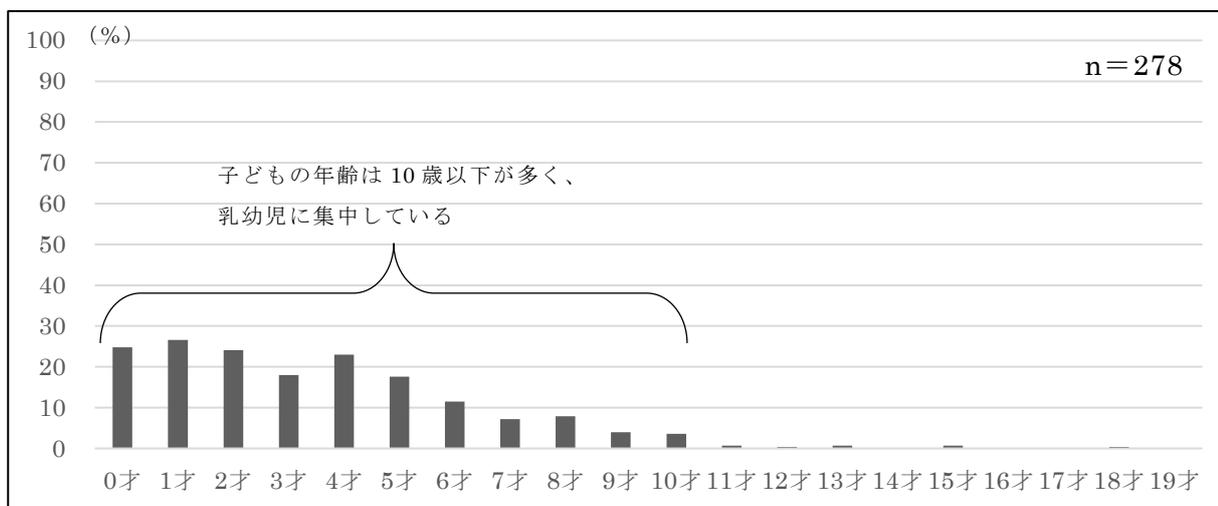


図 2 子どもの年齢

2. 就業について

1) 卒業後の就業と現在の就業状況

卒業時の就業資格と現在の就業資格の割合を比較すると、看護師と助産師は減っているが、保健師は 7.2% から 15.7% と約 2 倍に増えていた。本学の卒業生の再就職では保健師資格が活かされていた (図 3)。

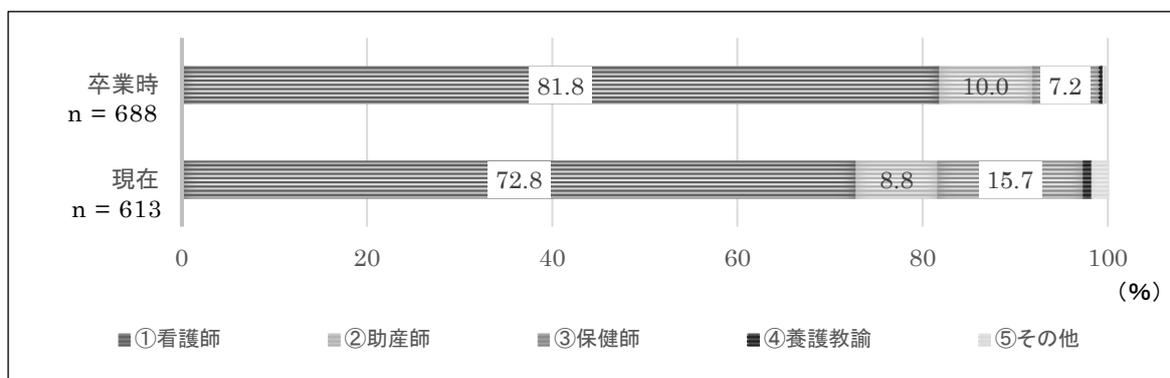


図 3 卒業後と現在の就業状況

2) 最初の就業時に勤務先を選んだ理由

卒業時の勤務先を選んだ理由の上位項目は、「勤務地」、「教育体制 (新人教育)」、「実習時の印象」、「希望する診療科・部署がある」であった (図 4)。

3) 転職または退職した理由とその内訳

転職または退職した経験のある卒業生 144 人が「転職または退職の理由」と回答したのは、「ワークライフバランス」が 66.0% と一番多く、続いて「労働条件」が 20.8% であった (図 5)。「ワークライフバランス」を選択した理由の内訳は、「育児」、「家事」、労働条件を選択した理由の内訳は、「超過勤務」、次いで「勤務体制」、「休暇取得」が多かった。

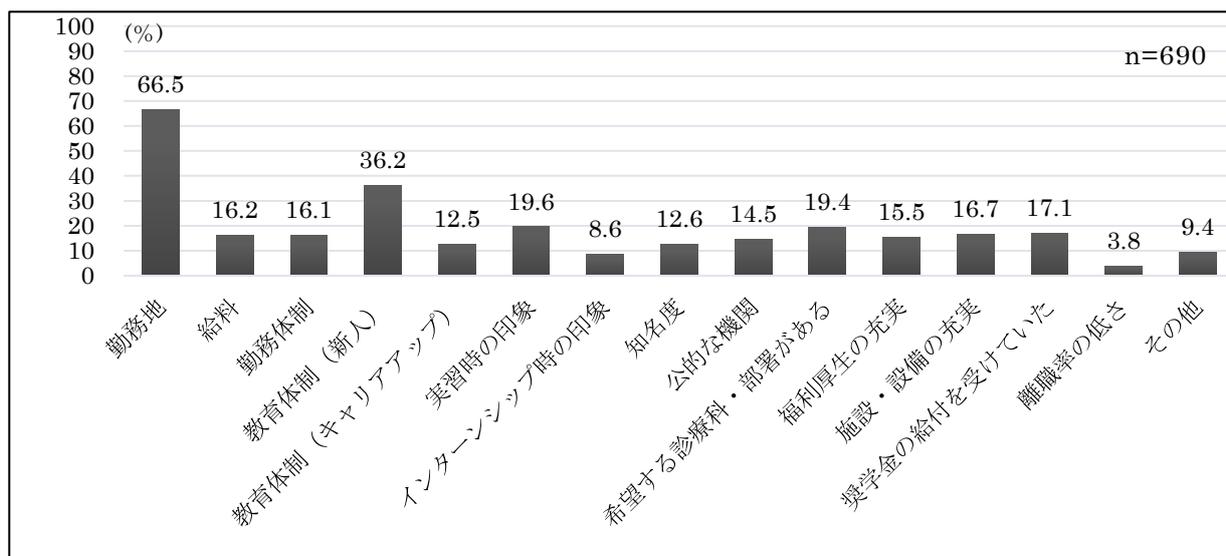


図 4 最初の就業時に勤務先を選んだ理由 (複数回答)

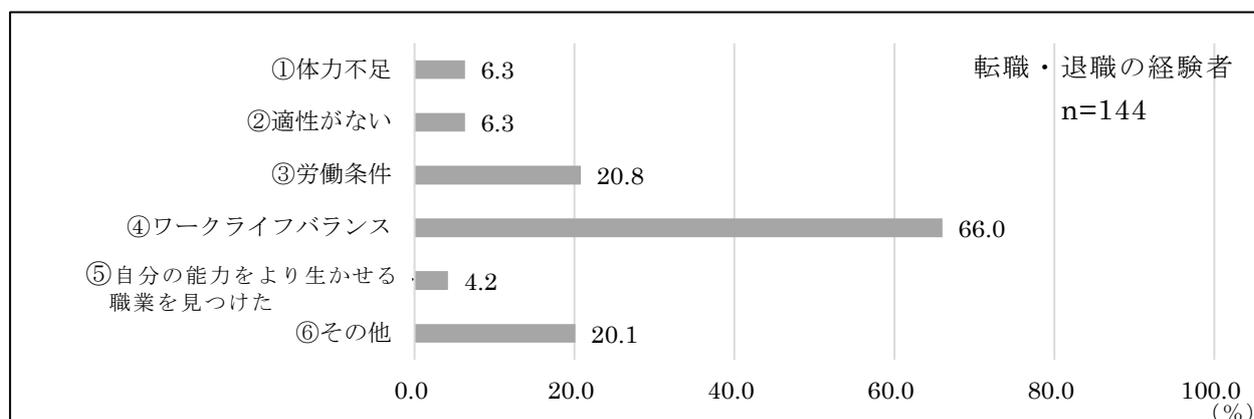


図 5 転職または退職した理由 (複数回答)

4) 復職希望について

現在、看護職を離れている卒業生は 105 人であった。その 105 人のうち、「いずれ復職したいと考えている」は 57.1%、「可能であれば復職をしたいと考えている」は 19.0%、合わせて約 8 割近くが復職を考えていた (図 6)。

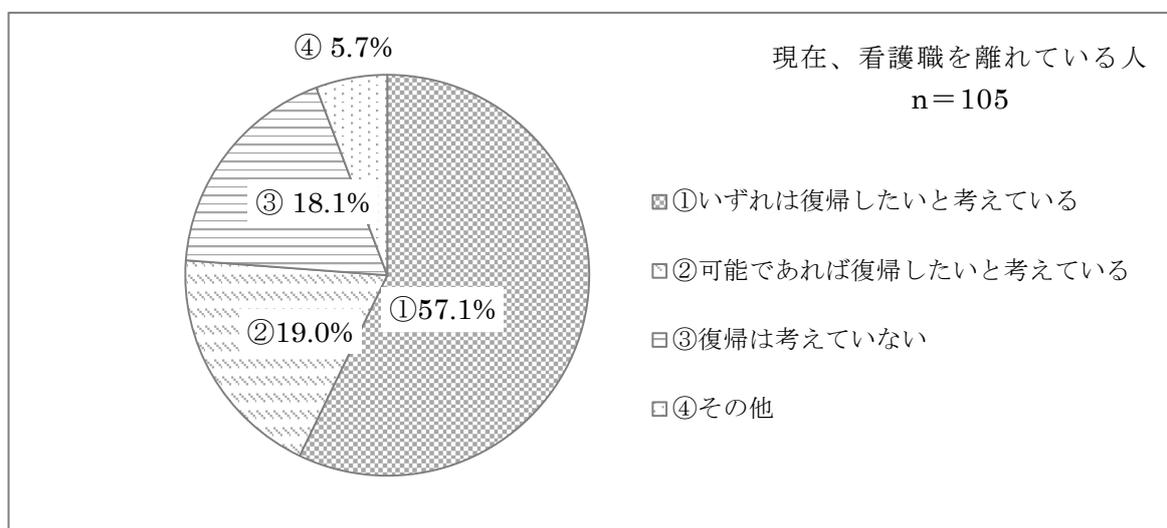


図 6 復職希望

復職にあたっての課題は、「育児との両立」67.1%、「家事との両立」51.3%、「医療・看護の知識」46.4%、「看護技術」40.3%であった（図7）。卒業生の復職への課題として、ワークライフバランスに関係する内容と看護職としての知識・技術に関係する内容の両側面の不安や課題を抱えている事が考えられた。

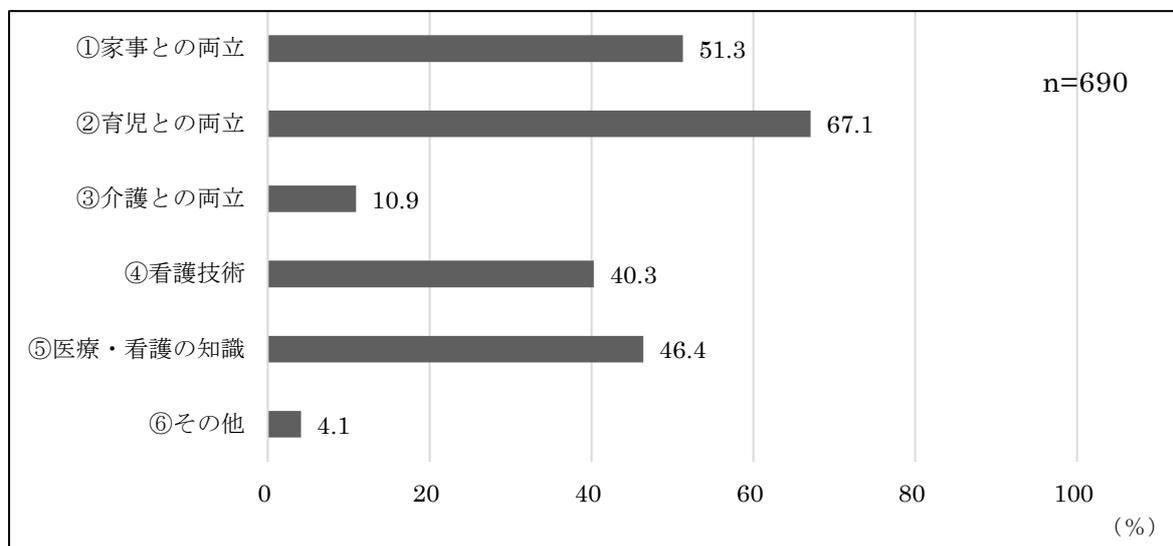


図7 復職にあたっての課題（複数回答）

3. 看護職としてのキャリア形成について

卒業生自身のキャリア形成について希望は、「専門的な知識を高める」66.2%が一番多く、次いで「専門的な技術を高める」46.5%であった（図8）。

今後は、卒後教育のニーズの高い科目のリカレント教育講座の開講、キャリア形成のモデルとなる卒業生との座談会などが具体的な支援として検討をしていく必要があると思われる。

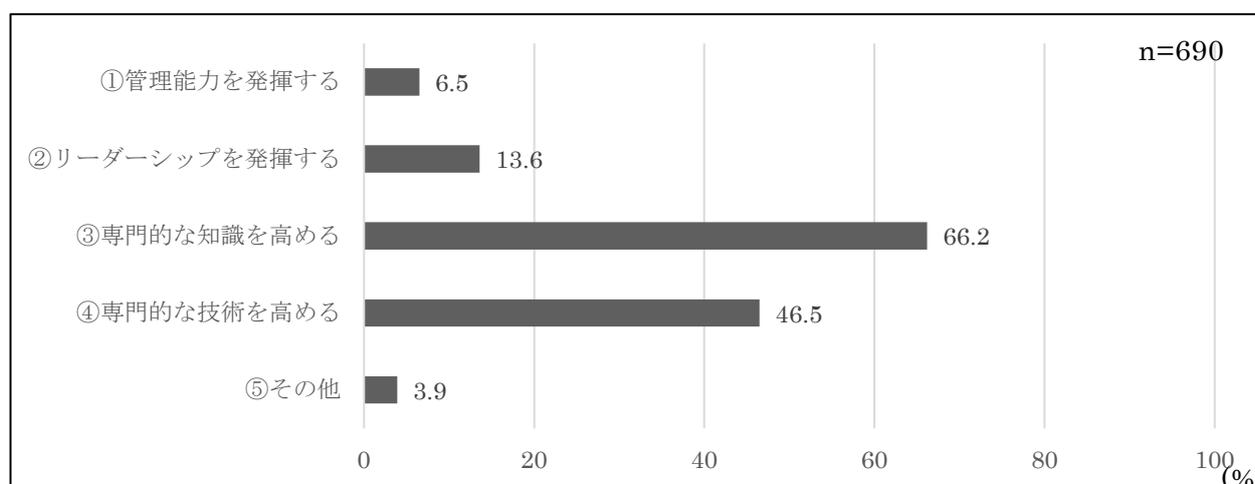


図8 今後のキャリア形成（複数回答）

4. 本学からの情報提供について

本学からの情報提供を希望したのは286名（41.4%）であった。情報提供を希望した内容は、「資格取得やキャリアアップに結び付く研修等の情報」が67.5%であった（図9）。

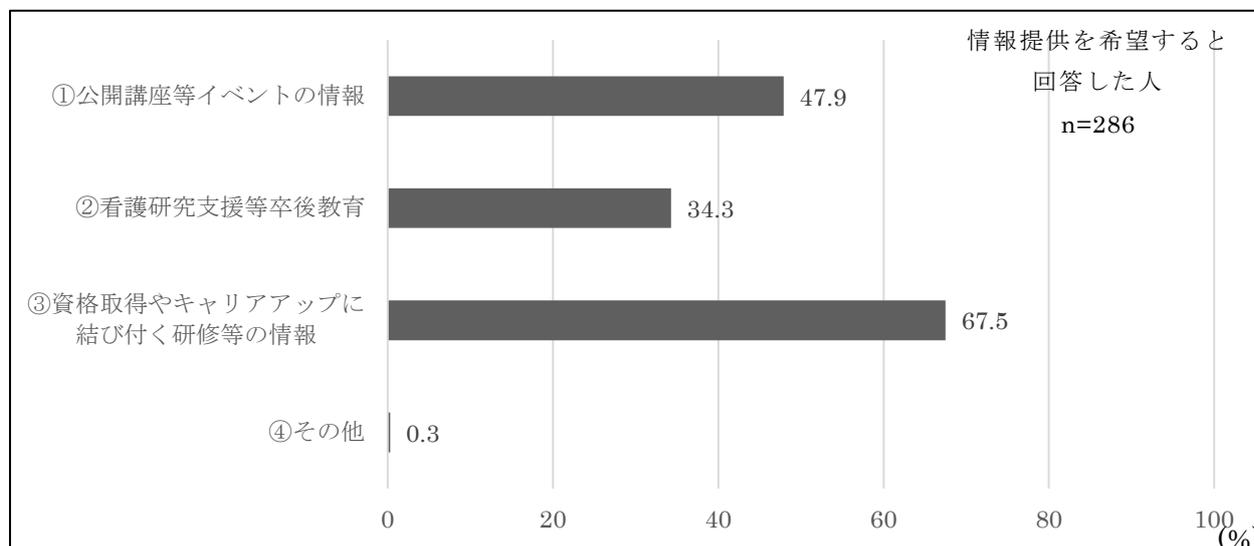


図9 情報提供を希望した内容（複数回答）

まとめと今後の課題

この「卒業生就労状況調査」は、本学が平成26年度に文部科学省に採択された「大学教育再生加速プログラム（AP）」と地域交流センター教員提案事業〔卒業生支援事業〕「医療・福祉機関と連携した看護職員確保対策事業」が連携し実施した。その結果、卒業生1435人中、690人（回収率48.1%）と沢山の回答が得られた。回答内容から卒業生の背景や就業状況、就職先を選んだ理由、復職希望や復職にあたっての課題などが明らかになった。

今後は、大学として卒業生支援や三重県看護職員確保対策に貢献するための体制が望まれる。

1. 本学の卒業生支援について

今回の調査結果から、卒業生との連絡が不十分である事が明らかになった。連絡が取れる卒業生の回答でも、本学からの情報提供を希望したのは41.4%と低い結果であった。

開学20周年を迎えた本学にとって、大学としての具体的な卒業生への情報発信、卒業生とのネットワークを繋げていくことが卒業生支援の取り組みの課題と思われる。今後の支援としては、復職・キャリア形成などのニーズにあった支援の内容や卒業生が大学にいつでも相談できる窓口などを検討していくことが重要と思われる。また、この調査結果は、文部科学省 大学教育再生加速プログラム（AP）「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成プログラム」の卒業生支援の基礎資料として活かしていきたい。

2. 看護職員確保対策について

卒業生就労状況調査から就業時に勤務先を選んだ理由などで明らかになった。これらの結果を踏まえて、三重県の病院や実習先との情報共有を大切にして、連携・協力体制を強化していくことが必要と考える。さらに、本事業結果を三重県看護職員確保対策の一助になるように努めていきたい。